倫理学を学ぼう!

蔵田伸雄

皆さんは「倫理学」についてどのようなイメージをお持ちでしょうか。高校の「倫理」の教科書に出てくる、プラトンやアリストテレス、あるいはカントといった倫理学者たちの名前を思い浮かべるでしょうか。また「倫理」とは、「あれをしてはならない、これをしてはならない」という、うっとうしい「お説教」のようなものだから、「倫理学を学ぶ」ということは「口うるさい教師のお説教を聞くこと」や「禁欲主義的な人になるための修行をすること」だと思うかもしれません。しかしそうではないのです。

まず倫理学を学ぶということは、過去の倫理学者たちの思想を学ぶことだけではありません。新聞を開けば、様々な場面で「倫理」という言葉が用いられています。「臓器移植について生命倫理の観点からの議論がもっと必要だ」「企業の倫理が問われている」。しかしそもそも「倫理」とは何でしょうか。個人の良心のことでしょうか。それとも法律や、様々な社会的なルールのことなのでしょうか。「倫理学を学ぶ」ということは、まずこういった問題について、具体的な場面に即して考えていくことなのです。

倫理学とは、「正しい行為とはどのような行為なのか」「ある行為が許されないとしたらそれはなぜか」といった問題について考える学問です。そして「倫理学を学ぶ」ということは、こういった問題について書かれたものを読んだり、さらにこういった問題について考えたり、議論したり、自分の考えを文章にまとめたりする作業を通じて、行為、善、正義、義務、幸福、権利といった概念の意味を明らかにしていくことなのです。しかも今私たちは、過去に人類が直面したことのない新しい倫理問題に直面しています。先端医療技術や脳科学、地球温暖化、情報技術の普及は新たな倫理問題を次々と提起しています。新しい医療技術について、どのようなルールをつくればよいのでしょうか。なぜ生態系を守らなければならないのでしょうか。こういった新しい倫理問題について考えることは、「自由」「生命」「所有」「平等」「人間の尊厳」「人生の意味」といった概念について、新たに問い直すことにもなるのです。

倫理学の授業では、過去の倫理思想や、倫理学の基礎的な理論を学んでもらうとともに、現代社会が抱える様々な問題についても学ぶことになります。社会が直面する様々な倫理問題について、一緒に考えてみませんか。